

みに対する質疑答弁の状況

【質疑】 ベッド使用率が上がれば、収入が増えるが、それに伴い人件費等が増えていく。その関係性はどうか。

【回答】 入院患者数が令和元年度の水準まで戻れば、収入は当然増える。それに伴い、人件費などは一定の増加を見込むが 診療材料費や薬品費はそれ以上に増加していくと考える。純損益は黒字の域までは達しないと考えるが、この純損益、赤字幅をなるべく少なくするように経費の節減に努めていきたい。

【質疑】 経営健全化に向けた取組みに、入院患者を増やすということがある。これは病院としては本来ではないが、どう考えるか。

【回答】 今後見込まれる疾患としては、呼吸器系の疾患や外傷系、また循環器系の疾患が高齢化に伴って増えるような予測をしているが、入院患者を増やすことは難しい面もある。当院の役割としては、救急の患者さんをしっかり受入ていき、場合によっては 1 泊入院を勧めるなど、患者さんの確保、適正な入院を促進していくというような考えである。

地域医療構想の会議の中で、今後当圏域は、2030 年ぐらいまで患者さんは増え、それから減少するという想定をしている。

来年度コンサルタントを導入し、今後の医療需要を見て分析をした中で、病院としてのあり方を整理してまいりたい。

【質疑】 3 ページの『収益的収支の見通しの表』では、令和 6 年度と 7 年度の職員給与費は、概算で 5 億円増えている。基本的な考えとして、この資金はどのようになるのか。

【回答】 人件費増の財源は、診療報酬改定でベースアップ評価料が創設され、来年度も診療報酬に含まれるということであり、来年度も 1 億円程度は見込めるが、不足する 4 億円程度は持ち出しになると考えてい

る。

【質疑】 今までの話を聞いていると、これからコンサルタントを入れることありきのような話に聞こえるが、これまで毎月の収支のバランスや経営に関する検討をどのように行ってきたか。

【回答】 毎週、課長級以上の職員が集まって状況を確認する経営会議と、月1回部長と副院長以上の医師が集まって、経営状況を見て確認をし、対策を考える経営企画会議を行ってきた。解決策がなかなか見いだせないため、今回外部の力を借りる予定とした。

【質疑】 5ページを見て、客観的に経費の削減は大変なことだと思う。6ページのシミュレーションで、減価償却費が令和3年から令和9年までの間に約5割増しになっている。市立病院は中核病院なので、新しい医療機器が必要かとは思いますが、減価償却ってというのは対応年数20年だったら20分の1、1年に経費に計上されるだけだが、この短期間で5割増しになる理由はなにか。

【回答】 減価償却費については、市立病院が地域の中核病院ということで、直近ではMRIなど億単位の医療機器を入れる必要があり更新している。医療機器については、耐用年数が5年や6年といった比較的短いものが多い。億単位の高額なものを導入すると減価償却費も次年度以降大きく影響が出る傾向がある。医療機器の導入にあたっては、更新の必要性や検証は当然やっているし、今後もやっていく。

- 令和7年度飯田市病院事業会計予算（案）に対し、経営健全化に向けた取り組みの説明や当分科会からの質疑に対する答弁から、座長から2つの論点を掲げ、議員間自由討議を行い、意見は、社会文教分科会附帯決議の案として集約した。

○なお、

議案第 50 号

令和 7 年度飯田市国民健康保険特別会計予算（案）、

議案第 51 号

令和 7 年度飯田市後期高齢者医療特別会計予算（案）、

議案第 56 号

令和 7 年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計予算（案）

特段申し上げることなし

②分科会分担分【当初予算議案】

予算決算委員会 産業建設分科会座長報告

令和7年3月21日 予算決算委員会 後期全体会

○議案第49号のうち、産業建設分科会の分担分、議案第53号、議案第54号、議案第59号、議案第60号、及び議案第61号の審査の経過報告

○議案第49号

「令和7年度飯田市一般会計予算（案）」のうち当分科会の分担分

○2款 総務費 1項 総務管理費 9目 企画費 の審査

「リニア推進事業（事務事業No.36）」及び「リニア駅周辺整備事業（事務事業No.37）」

【質疑】「駅周辺整備は、リニアの開業が遅れること、静岡工区の工事の進捗状況、要対策土の問題からも、一旦立ち止まる必要がある。事業実施にあたり特殊事情として、交付金の扱いについて、国や県に事業の進め方について協議を行ったか。」

【答弁】「整備に当たっては、国の交付金を活用した事業であり、国や県と協議し、1期工事、2期工事に事業計画を見直した。2期工事はリニア本体工事に合わせた整備となる。」

○次に、同じく 17目 リニア推進事業費の

「リニア推進事業（事務事業No.25）」に関し、

【質疑】「地域公共交通改善市民会議運営経費及び南信州広域連合負担金について、前年度との予算額の違いは。」

【答弁】「地域公共交通改善市民会議運営経費の減額要因は、バ

スロケーションシステム構築が終了したこと。南信州広域連合負担金の増額は、公共交通体系の協議・検討を進める上で、関係市町村の負担を求められている。」

【質疑】「令和6年度に実施した次世代交通整備事業における3Dデータ成果品は、令和7年度の事業でどのように生かされるか。」

【答弁】「令和7年度は、事業を縮小しているが、自動運転の実証実験結果の検証を基に、公共交通の活用についての検討を進め、その上で3Dデータの活用を図る。庁内で共有し、他に活用できることがあれば活用できるよう取り組む。」

○5款 労働費 1項 労働諸費 1目 労働諸費の審査

「勤労者支援事業（事務事業No.144）」

【質疑】「勤労者福祉センター管理費のうち、施設改修費の2,233万円の事業内容は。」

【答弁】「同センターの一部LED化された箇所を除くすべての照明器具をLED化する計画である。」

○6款 農林水産費 1項 農業費 3目 農政対策費の審査

「担い手確保・育成支援事業（事務事業No.150）」

【質疑】「活動指標について、前年度の計画数と比較すると増減している理由は何か。」

【答弁】「新規就農者数は、これまで合算していた法人分を減じたこと。農業研修生数は、地域おこし協力隊を除いた8名、新規就農者数は、独立就農に加え、7年度中に就農を目指す相談件数を加えた計画とした。」との答弁がありました。

【質疑】「事業費が前年対比で増額となっている理由は。」

【答弁】「地域おこし協力隊員の任期は2年あり、令和6年度は1年目の2名のみであったところ、令和7年度は1年目の1名と2年目の2名を合わせ、合計3名と1名増員したことが主な要因である。」

○同じく 4目 農業振興費

「地域循環型農業推進事業（事務事業No.154）」

【質疑】「予算額が対前年比で大きく減額となった理由は。」

【答弁】「令和6年度の実施を予定したBS資材の実証実験に係る国庫補助事業が不採択になったことから、計画変更による減額となった。」

【質疑】「事務事業を構成する予算科目の域産域消推進事業費について、当委員会から地域内経済の循環についての提案事項に関する事業であるが、その事業内容の具体は。」

【答弁】「地域農産物をお客さんに提供する専門店を認証する事業、及びまちの八百屋システムの方で活動している事業である。委員会から提案のあった事項は、関係課が連携し、産業振興課が所管する事業において、包括的に取り組むこととしている。」

○同じく 2項 林業費 2目 林業振興費

「林道整備事業（事務事業No.173）」

【質疑】「事業費が対前年比で倍増となった理由は何か。」

【答弁】「野底山財産区の認証材をリニア駅周辺整備の大屋根に使用するため、木材の搬出に利用する林道開設事業費、及び橋りょうの塗料に含まれるPCBを除去するための事業費分の増額。」

【質疑】「森林経営管理基金からの繰入額が約1億円あるが、基金の概要は。」

【答弁】「基金の財源は、森林環境譲与税を積み立てている。歳入分を当年度事業費に充当するよう県から指導があることから、住宅への助成などの支援事業について、将来的には、基金から補助金や交付金のように森林環境譲与税を直接財源とする形態に移行していく想定をしている。」

○7款 商工費 1項 商工費 4目 観光費の審査

「観光まつり振興事業（事務事業No.179）」

【質疑】「7年度の取り組み内容に記載の飯田まつりの運営を担う市民事務局の幅広い世代からの募集とする意図は。」

【答弁】「本年度は高校生が祭りの企画から運営に関わったことでやりがいを感じていただけたことから、幅広い年齢層から関わっていただけるよう引き続き募集してまいりたい。」

○同じく 5目 工業振興費の審査

「起業家育成支援事業（事務事業No.192）」

【質疑】「7年度の実施に記載の飯田に住み、働きたくなるような暮らしの魅力を発信についての庁内連携は。」

【答弁】「起業家支援は、工業課の他に、共生・協働推進課、結いターン移住・定住推進課においても取り組んでいる。役割を整理し、連携しながら起業家支援に取り組む。」

○同じく 6目 まちづくり推進費の審査

「りんご並木活性化事業（事務事業No.193）」

【質疑】「7年度の実施に記載の社会実験の効果検証を踏まえてりんご並木の効果的な活用方策の検討とは。」

【答弁】「今年度実施した社会実験は、地元からの要望を受け、

沿線店舗の方と連携し、昨年9月から11月末までの期間の休日10日間に歩行者天国化し、従来の歩行者天国イベントとは異なる形態で実施。通過車両の減、歩行者は5割増となった。動物園や店舗からりんご並木へ人の流れを確認している。こうしたことを踏まえ、更にりんご並木の効果的な活用を検討してまいる。」

「事業継続支援事業（事務事業No.196）」

【質疑】「新規事業の貨物運送事業者支援交付金の交付対象者は。」

【答弁】「一般貨物自動車運送事業、また貨物軽自動車運送事業を営む、資本金3億円以下、又は従業員数300人以下の中小企業を対象とした、中小事業者を支援する事業。」

「地域経済循環推進事業（事務事業No.195）」

【質疑】「行動経済学的介入業務委託について、前年対比で減額となっている。地域経済活性化プログラム改善支援業務委託は、地域経済循環分析調査にとって必要と考えるかどうか。」

【答弁】「本年度は指標の検討に当たり専門的知見が必要であったため業務を委託し方向性を出していただいたが、来年度は独自に取り組んでまいる。」

○8款 土木費 2項 道路橋りょう費の審査

「社会基盤維持管理事業（事務事業No.162）」

【質疑】「事業内容の支障木の伐採に係る令和5年度及び令和6年度の補助金申し出の実績は。」

【答弁】「これまでは、年間3から4件程度の申請であったが、本年度は約10件の申請がある。各地区のまちづくり委員会や自治振興センターを通じた周知から申請件数が増

加している状況。」

【質疑】 橋りょう補修事業のうち、予算書に計上されている5,000万円の工事箇所は。また、河川維持補修事業のうち、予算書に計上の1,000万円の工事箇所数は。」

【答弁】 「橋りょう補修は、千代地区の「中の橋（なかのはし）」下部工の補修となる。また河川のしゅんせつは、上久堅と千代が1か所、山本が2か所の計4か所を予定している。」

「リニア関連道路整備事業（事務事業No.202）」

【質疑】 「予算額の財源内訳が対前年比で一般財源が大きく増えているが、その理由と見通しは。」

【答弁】 「県事業の座光寺上郷道路に接続する道路整備の負担金を補助額で調整し一般財源で加味している。令和9年度までに完了後は減額となる。」

「土木事業促進事務（事務事業No.197）」

【質疑】 「高校生向け出前講座の具体的な内容は。また中学生を対象とする考えは。」

【答弁】 「対象によって内容を替えている。専門的な内容の場合もある。現状では、より効果が期待される高校生、専門学校生を中心に取り組むが、要望があれば対応したい。」

○同じく 3項 河川費の審査

「天竜川総合学習館管理運営事業（事務事業No.207）」

【質疑】 「活動指標の令和5年度と7年度計画値を比較では、講座開催数、来館者数ともに計画数は下がっているが、予算額は増額となっている理由は。」

【答弁】「予算額の増額要因は、建物周辺のビオトープなどの野外施設の環境整備について、ボランティアスタッフが継続して対応いただけるよう無償から実費支給することとしたため。」

講座開催数は、学習館職員の業務負担の軽減を図るため、直接関与する講座数を減らし、関係団体が自律的に講座を開催できるよう支援することとしたため開催計画数は前年と比べ減少している。また、来館者数は、団体の立ち寄りが減少するため見込みから除いた。」

○同じく 4項 河川費の審査

「都市計画推進事業（事務事業No.209）」

【質疑】「取組内容に都市計画公園の見直しとあるが、課題となっている具体的な内容は。」

【答弁】「飯田大火後の復興の区画整理で墓地などを郊外へ移転できず、市街地の都市計画公園が未着手となっている。こういった未着手の公園を廃止するほか、天竜川治水対策事業の区画整理に伴い、整備した公園を新たに都市計画公園に位置付けることを検討している。飯田市では、都市計画道路の見直しを行ってきたが、同様に都市計画公園の見直しを進めていく。」

「飯田動物園管理運営事業（事務事業No.215）」

【質疑】「課題認識に記載のりんご並木や中央公園への回遊性への具体的な対応と予算額は。」

【答弁】「具体的な事業は、指定管理者と連携して取組むこととなるが、これまでも実施してきた丘の上朝市やナイトズーなどの取組の継続に加え、令和7年度からは新たに動物園を起点にスマホを活用したクイズラリーを企画し、回遊性を高められるよう準備を進めている。事業費は指

定管理業務委託料に含まれ、指定管理者の自主事業となる。」

「公園整備事業（事務事業No.212）」

【質疑】「避難地となる都市公園のトイレの洋式化について、対象箇所数と改修箇所数は。」

【答弁】「対象箇所数は、26か所。このうち25か所は洋式化を終えており、残り1か所を改修する予定。」

○同じく 5項 住宅費の審査

「旧市営住宅敷地等管理事業（事務事業No.217）」

【質疑】「活動指標の賃貸借料の収納率の目標は、令和7年度94%で、過去の令和3年度が62%、令和4年が95%となっていたが、目標値設定の根拠は。」

【答弁】「令和3年度から4年度にかけて賃貸借の解除が大きく進んだことによるもので、未納状況は、残り1件となっている。賃借人の死亡により、相続関係の手続きが進んでいない状況にあるため、収納率を100%に設定していない。」

○議案第54号「令和7年度飯田市駐車場事業特別会計予算

（案）」の審査

【質疑】「利用データの分析についてはどの程度進んでいるか。」

【答弁】「分析途中であるが、1時間利用者が8.6%減り、2時間利用者が7.5%増えたことから、中心市街地への滞在時間の延長につながっている分析しているが、マイナス40%の利用収入の減収分を埋め合わせることは大変難しい。

中心市街地に来訪いただくためのきっかけや魅力向上の

ほか、詳しい利用実態や民間駐車場の皆さんと意見交換しながら管理運営の方法についても検討する。」

○議案第 60 号「令和 7 年度飯田市下水道事業会計予算（案）」の
審査

【質疑】「ストックマネジメント計画に基づく管路点検の計画数が 0（ゼロ）とあるが点検が完了したということか。」

【答弁】「令和 7 年度までとなっている現行計画に位置付けられた箇所については実施済みのため、令和 8 年度からの次期ストックマネジメント計画において改めて策定する。」

【質疑】「上水道収入と下水道収入は連動する認識だが、営業収益において下水道使用料が 3.2%の増収、一方水道事業会計予算では、料金収入は減収との説明であったが、その要因は。」

【答弁】「下水道使用料は、これまで前年度予算額をベースに計上しており、決算では予算額よりも多くなる傾向があったため、実績値を基にして策定された「下水道事業経営戦略」の数値に合わせる形で、予算と戦略との整合を図った。計上の仕方を予算ベースから実績ベースに変えたもので、予算ベースでの比較では増額となるが、実績ベースでは減少傾向が続くと見込んでおり、指摘のとおり水道料金収入と下水道使用料収入は連動する。」との答弁がありました。」

【質疑】「管路施設ストックマネジメント事業の事業費が前年度対比では減額されているがその要因は。」

【答弁】「ストックマネジメント計画の最終年度にあたり、前倒しで事業実施した部分もあって予算額は減額となってい

るが、計画に位置付けた事業は予定どおり進捗している。」

○なお、議案第 53 号

「令和 7 年度飯田市地方卸売市場事業特別会計予算（案）」

議案第 59 号

「令和 7 年度飯田市水道事業会計予算（案）」及び、

議案第 61 号

「令和 7 年度飯田市各財産区会計予算（案）」

以上の 3 件 については、特に申し上げることはございません。